

「回復期リハビリテーション病棟協会と日本リハビリテーション看護学会からの提言」

コーディネーター 園田 茂 (藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学 II 講座教授)

座長 河口 朝子 (長崎県立大学シーボルト校看護栄養学部教授)

シンポジスト 荒木 暁子 (日本リハビリテーション看護学会理事長)

猪川まゆみ (鵜飼リハビリテーション病院副看護部長)

齋竹 一子 (@訪問看護ステーション所長)

回復期リハビリテーション病棟の仕組みは 2000 年に創られ、2001 年に回復期リハビリテーション看護委員会が発足された。一方、1989 年(平成元年)に日本リハビリテーション看護研究会が発足し、1992 年には日本リハビリテーション看護学会となった。

今回のシンポジウムでは、まずはコーディネーターの園田会長から今回のシンポジウムが実現されるまでの経緯や「リハビリテーションにおける看護の役割」について、猪川氏から「回復期リハビリテーションにおける看護」について、荒木氏から「看護とリハビリテーション看護」について、齋竹氏からは「在宅・地域で展開するリハビリテーション看護」について述べ、これからの日本における「リハビリテーション看護」のあり方についてディスカッションを通して提言をしたい。